

「平和と繁栄の回廊」構想について

★06年7月、小泉総理(当時)が中東を訪問した際、将来のイスラエル・パレスチナの共存共栄に向け、人々に信頼をもたらし、希望を与える我が国の中長期的取組として提唱。

平成19年7月
中東第一課
国別開発第二課

構想の内容と狙い

- 西岸に農産業団地を建設するとともに、西岸からヨルダンを通り湾岸諸国等に向けた物流を促進することで、民間セクターの活性化に基づくパレスチナ経済自立化に寄与する。
- この構想を、日本のODAも活用しつつ、日本に加え、イスラエル、パレスチナ、ヨルダン間の地域協力を通じて推進する。

取組の状況

- 06年11月に、イスラエル、パレスチナ、ヨルダンに約1ヶ月間、調査団を派遣し、農産業団地や水環境整備に関する開発調査、農業技術の普及に向けた技術協力等の支援案件を形成。
- 07年3月14日、東京にて4者協議の立ち上げ会合を閣僚級で開催(麻生外務大臣、ペレス・イスラエル副首相、エラカートPLO交渉局長、カスラウィ・ヨルダン国王特別顧問が出席)。
- 3月28日より、「農産加工・物流拠点整備」計画を事業化するための調査団を現地に派遣(8月末まで)。
- 6月27日に、4者協議の事務レベル会合をヨルダン側死海で開催。次回事務レベル会合は10月下旬に域内で開催予定。

